

陸側遮水壁の状況(第一段階 フェーズ2)

TEPCO

- 陸側遮水壁は凍結それ自体を目的としたものではなく、建屋への地下水の流入を抑制し、汚染水の発生を抑制するための対策である。
- 第一段階フェーズ2において山側の95%以下を閉合することで、建屋周辺への地下水の流入量を減らすことができ、第一段階として、汚染水の発生を抑制することができる。
- 第一段階を通じて、陸側遮水壁の効果発現状況を陸側遮水壁内外の地下水位差およびサブドレン・ウェルポイント・地下水ドレンの汲み上げ量等により確認していく。

地中温度経時変化

注1) 中粒砂岩層の平均地中温度(青線):
 地表~GL-2mと第1泥質部境界付近を除く1mピッチで計測されている測温管温度の平均値
 注2) 互層部の平均地中温度(赤線):
 互層部上下の層境界付近を除く、1mピッチで計測されている測温管温度の平均値



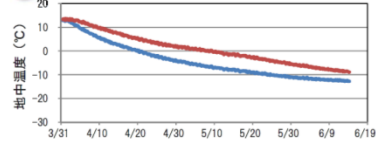
陸側遮水壁 経過報告

地中温度(測温管温度)

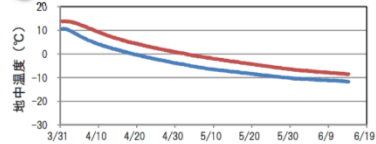
温度は6/14 7:00時点のデータ

フェーズ 2

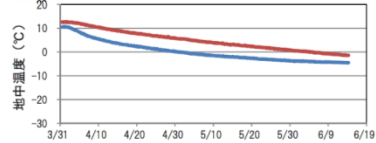
1 110-1S 中粒砂岩層 (-12.8°C) ※凍土ラインと測温管
 110-1S 互層部 (-8.9°C) の離隔 867mm



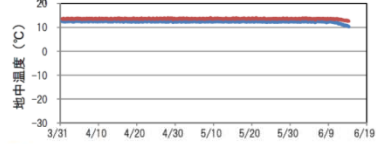
2 230-3S 中粒砂岩層 (-11.7°C) ※凍土ラインと測温管
 230-3S 互層部 (-8.5°C) の離隔 787mm



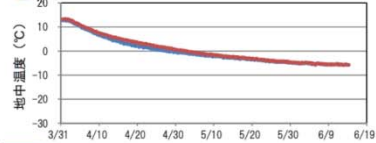
3 170-3S 中粒砂岩層 (-4.5°C) ※凍土ラインと測温管
 170-3S 互層部 (-1.4°C) の離隔 711mm



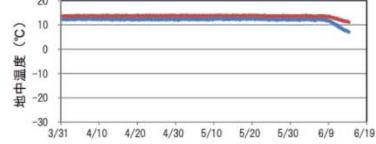
4 41-3S 中粒砂岩層 (10.3°C) ※凍土ラインと測温管
 41-3S 互層部 (12.6°C) の離隔 863mm



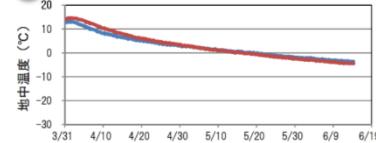
5 331-5S 中粒砂岩層 (-5.7°C) ※凍土ラインと測温管
 331-5S 互層部 (-5.8°C) の離隔 823mm



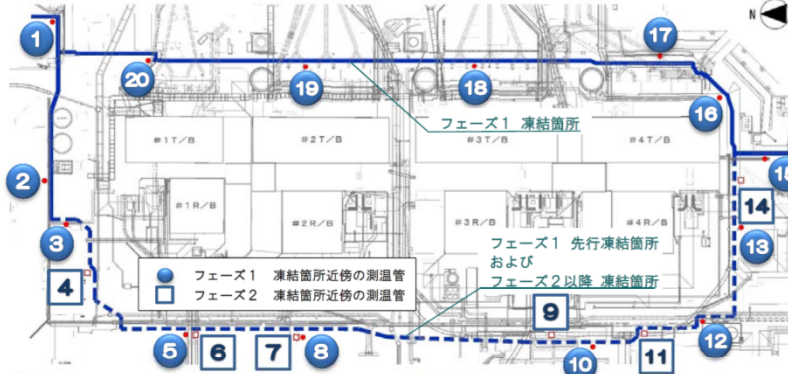
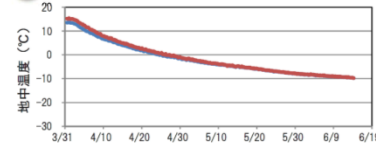
6 320-5S 中粒砂岩層 (7°C) ※凍土ラインと測温管
 320-5S 互層部 (11.1°C) の離隔 878mm



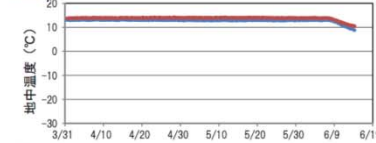
20 130-13S 中粒砂岩層 (-3.7°C) ※凍土ラインと測温管
 130-13S 互層部 (-4.5°C) の離隔 871mm



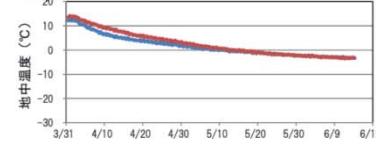
19 290-12S 中粒砂岩層 (-9.8°C) ※凍土ラインと測温管
 290-12S 互層部 (-9.8°C) の離隔 765mm



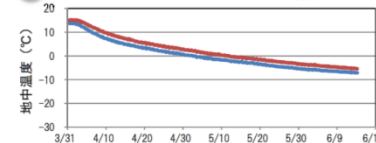
7 160-5S 中粒砂岩層 (8.8°C) ※凍土ラインと測温管
 160-5S 互層部 (10.5°C) の離隔 827mm



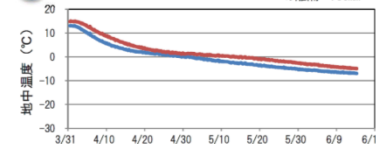
8 130-5S 中粒砂岩層 (-3.2°C) ※凍土ラインと測温管
 130-5S 互層部 (-3.4°C) の離隔 794mm



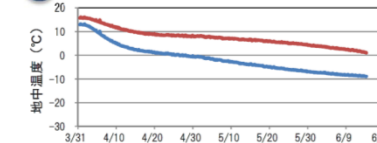
18 180-11S 中粒砂岩層 (-7.1°C) ※凍土ラインと測温管
 180-11S 互層部 (-5.4°C) の離隔 701mm



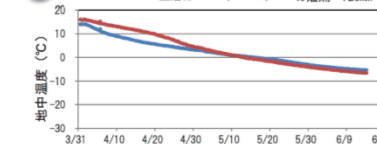
17 500-11S 中粒砂岩層 (-7°C) ※凍土ラインと測温管
 500-11S 互層部 (-5°C) の離隔 736mm



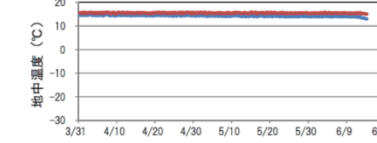
16 90-10S 中粒砂岩層 (-8.9°C) ※凍土ラインと測温管
 90-10S 互層部 (1°C) の離隔 794mm



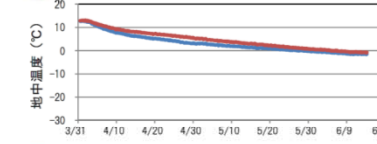
15 50-9S 中粒砂岩層 (-5.3°C) ※凍土ラインと測温管
 50-9S 互層部 (-6.6°C) の離隔 723mm



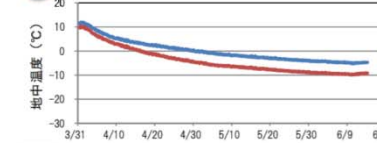
14 50-8S 中粒砂岩層 (12.9°C) ※凍土ラインと測温管
 50-8S 互層部 (15°C) の離隔 805mm



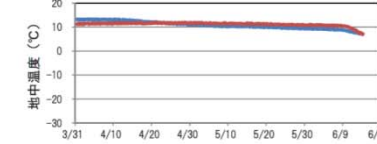
13 130-8S 中粒砂岩層 (-1.5°C) ※凍土ラインと測温管
 130-8S 互層部 (-0.7°C) の離隔 803mm



12 140-7S 中粒砂岩層 (-4.7°C) ※凍土ラインと測温管
 140-7S 互層部 (-9.2°C) の離隔 698mm

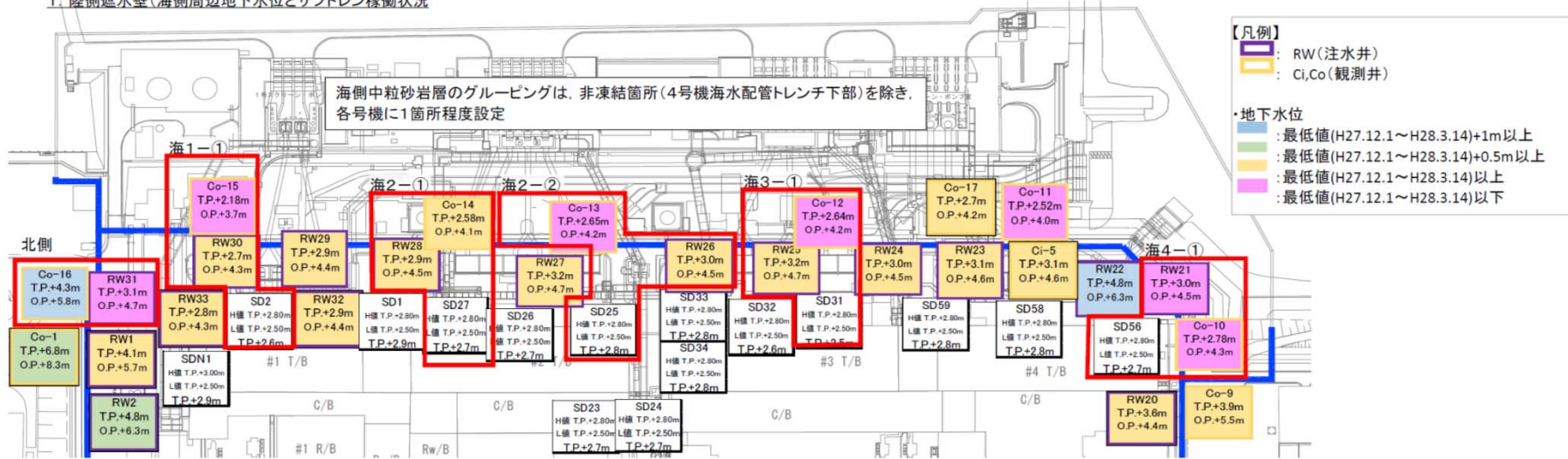


11 250-7S 中粒砂岩層 (7.2°C) ※凍土ラインと測温管
 250-7S 互層部 (7°C) の離隔 786mm

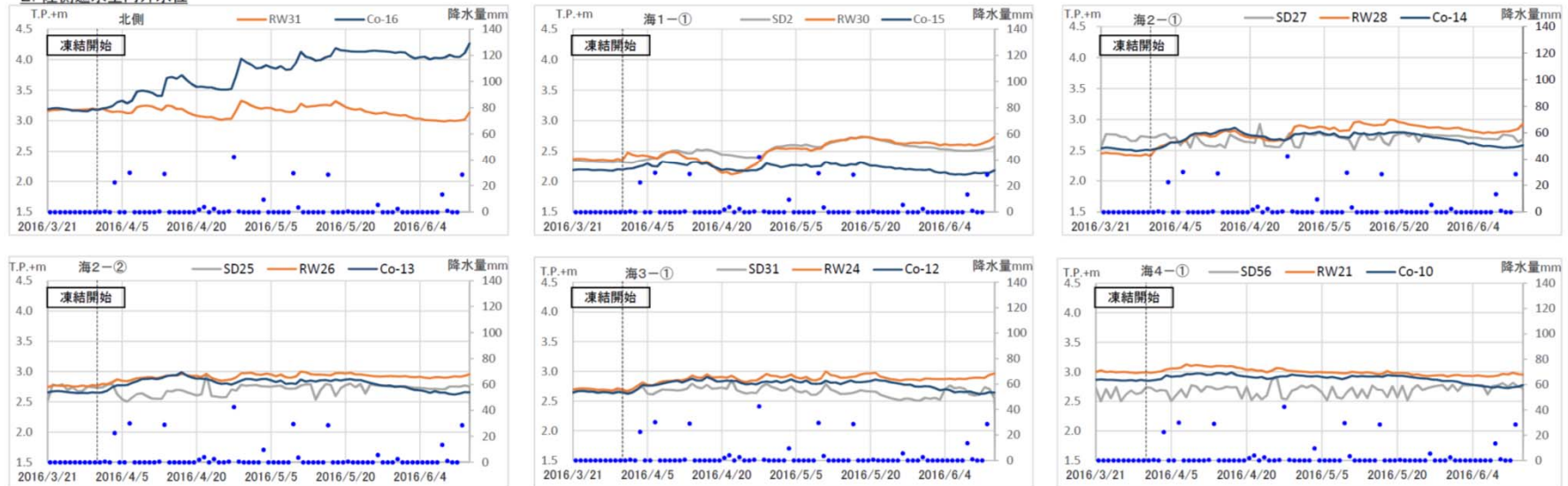


地下水位・水頭状況(中粒砂岩層① 海側)

1. 陸側遮水壁(海側周辺地下水水位とサブドレン稼働状況)



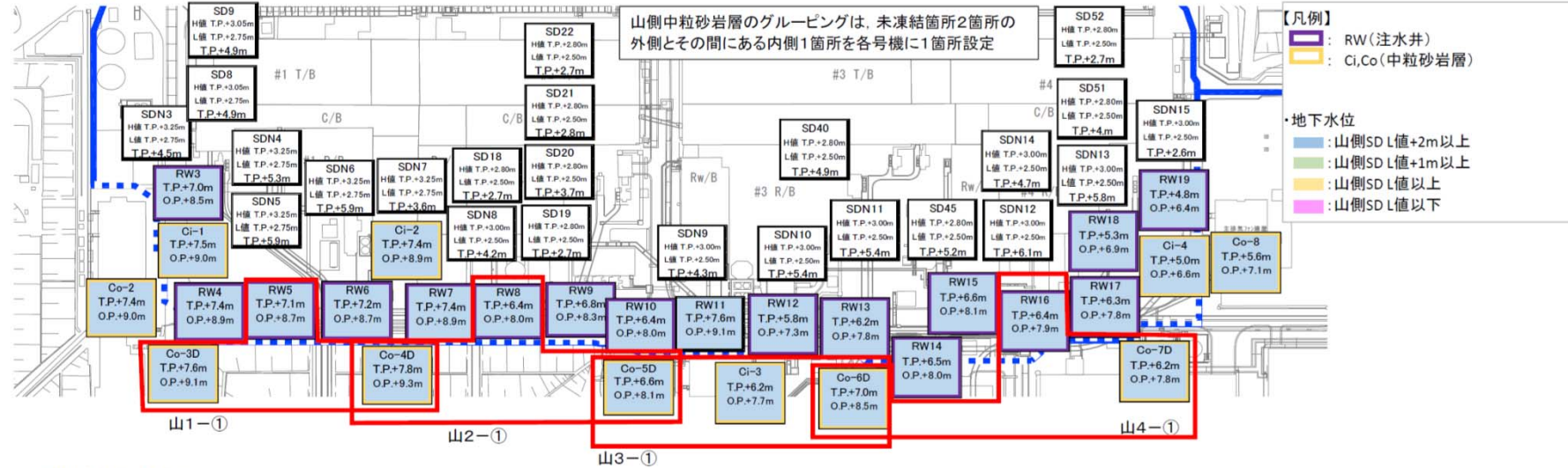
2. 陸側遮水壁内外水位



地下水位は6/14 12:00時点のデータ

地下水位・水頭状況(中粒砂岩層② 山側)

3. 陸側遮水壁(海側周辺地下水位とサブドレン稼働状況)

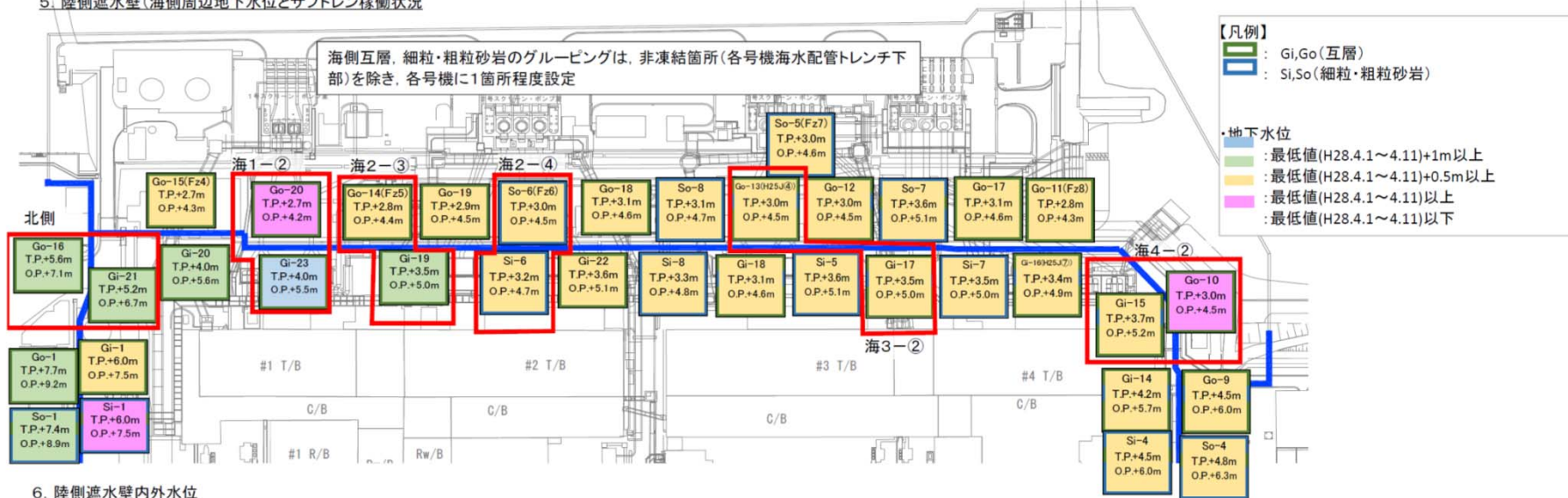


4. 陸側遮水壁内外水位



地下水位・水頭状況(互層、細粒・粗粒砂岩層水頭① 海側)

5. 陸側遮水壁(海側周辺地下水とサブドレン稼働状況)

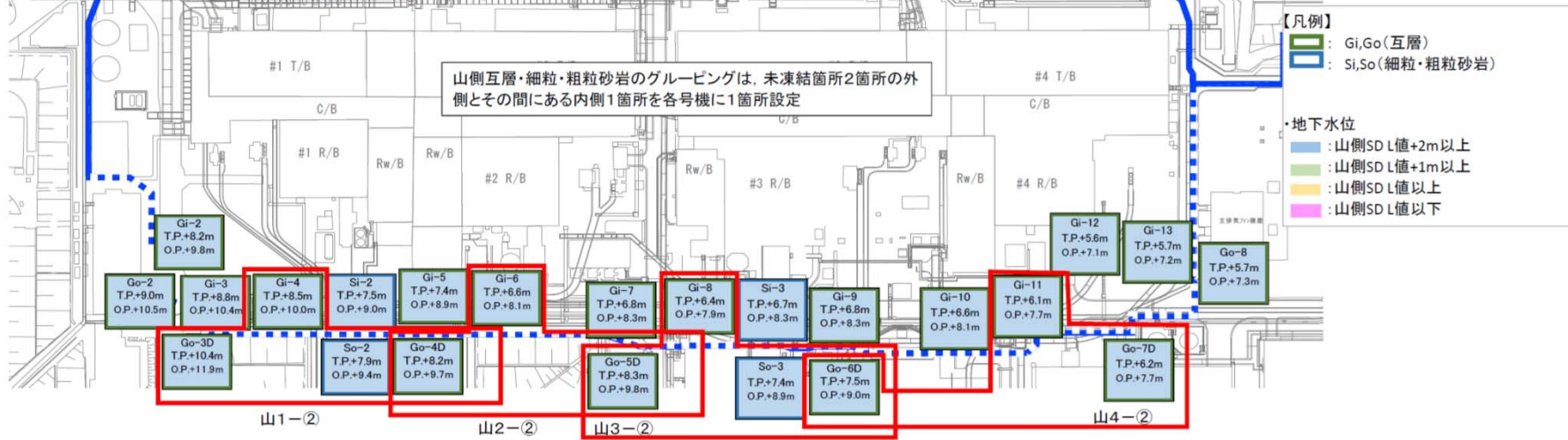


6. 陸側遮水壁内外水位

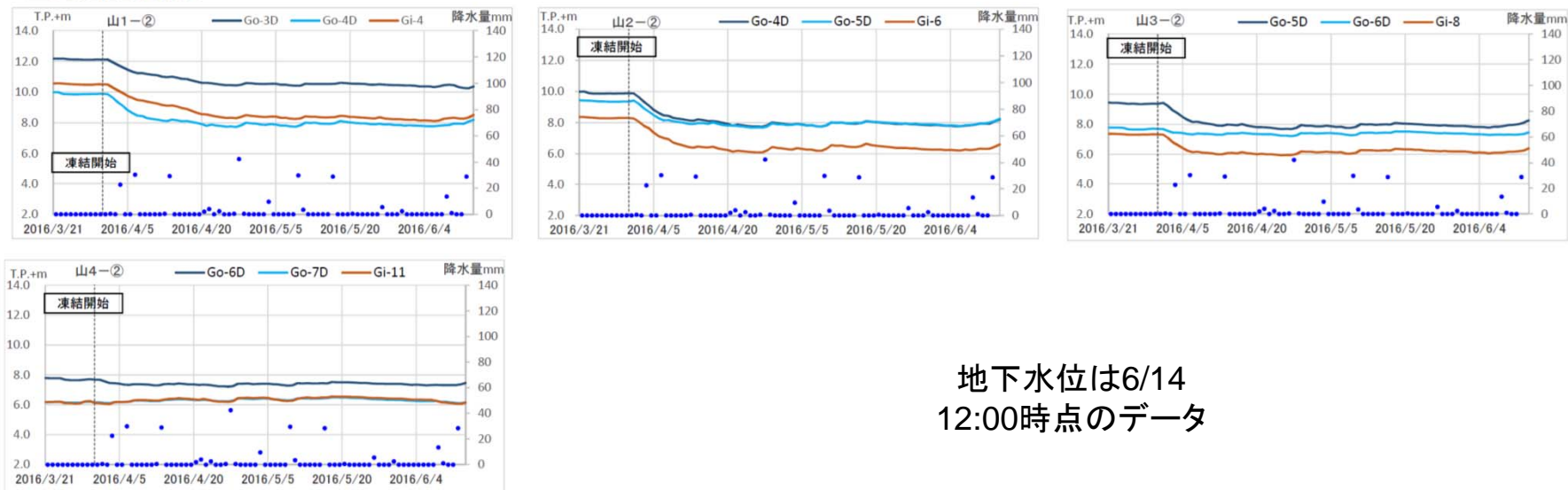


地下水位・水頭状況(互層、細粒・粗粒砂岩層水頭②) 山側

7. 陸側遮水壁(海側周辺)地下水位とサブドレン稼働状況

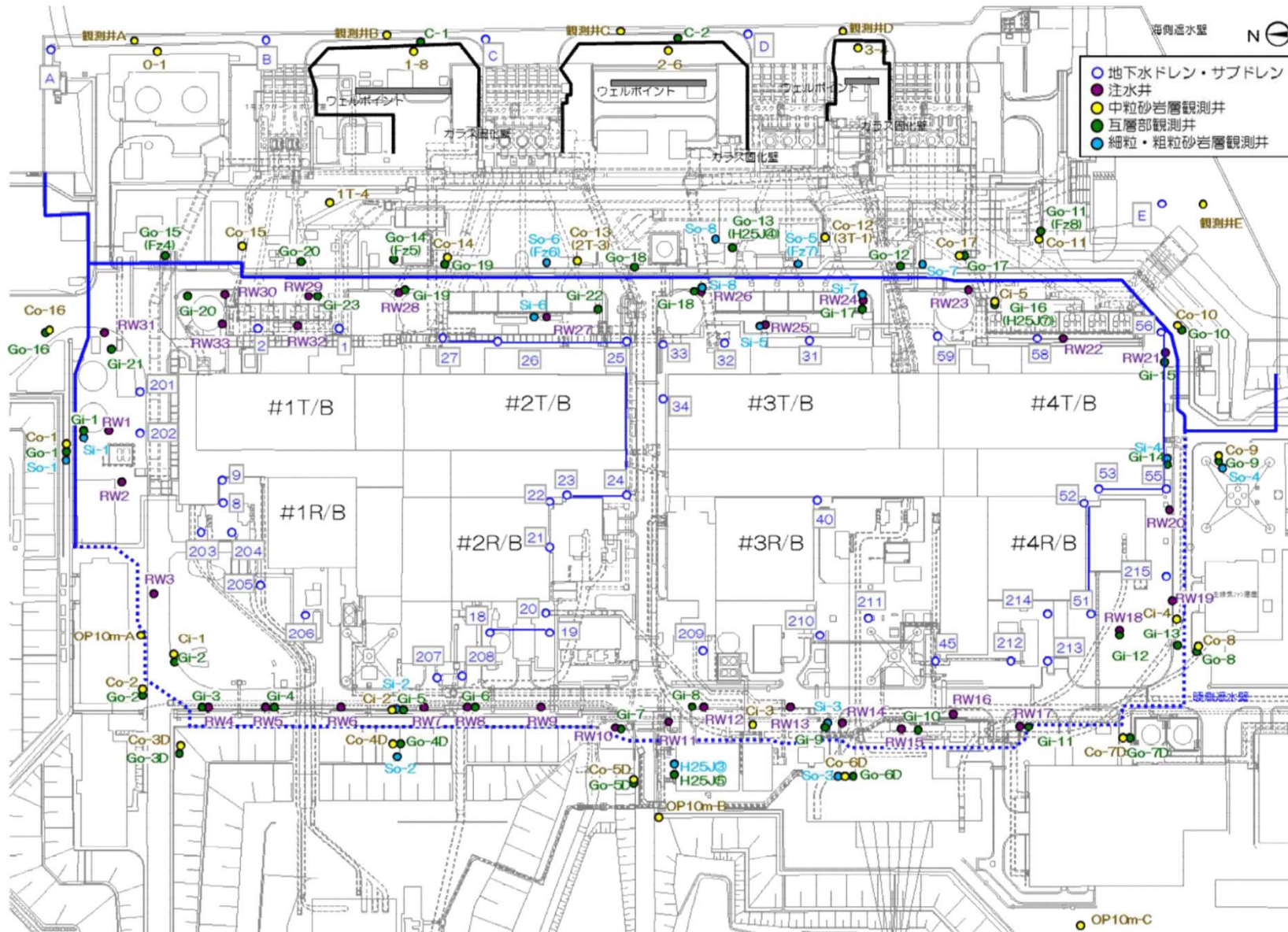


8. 陸側遮水壁内外水位



地下水位は6/14
12:00時点のデータ

【参考】地下水位観測井位置図(2016年4月現在)



【参考】地中温度分布図(1号機北側)

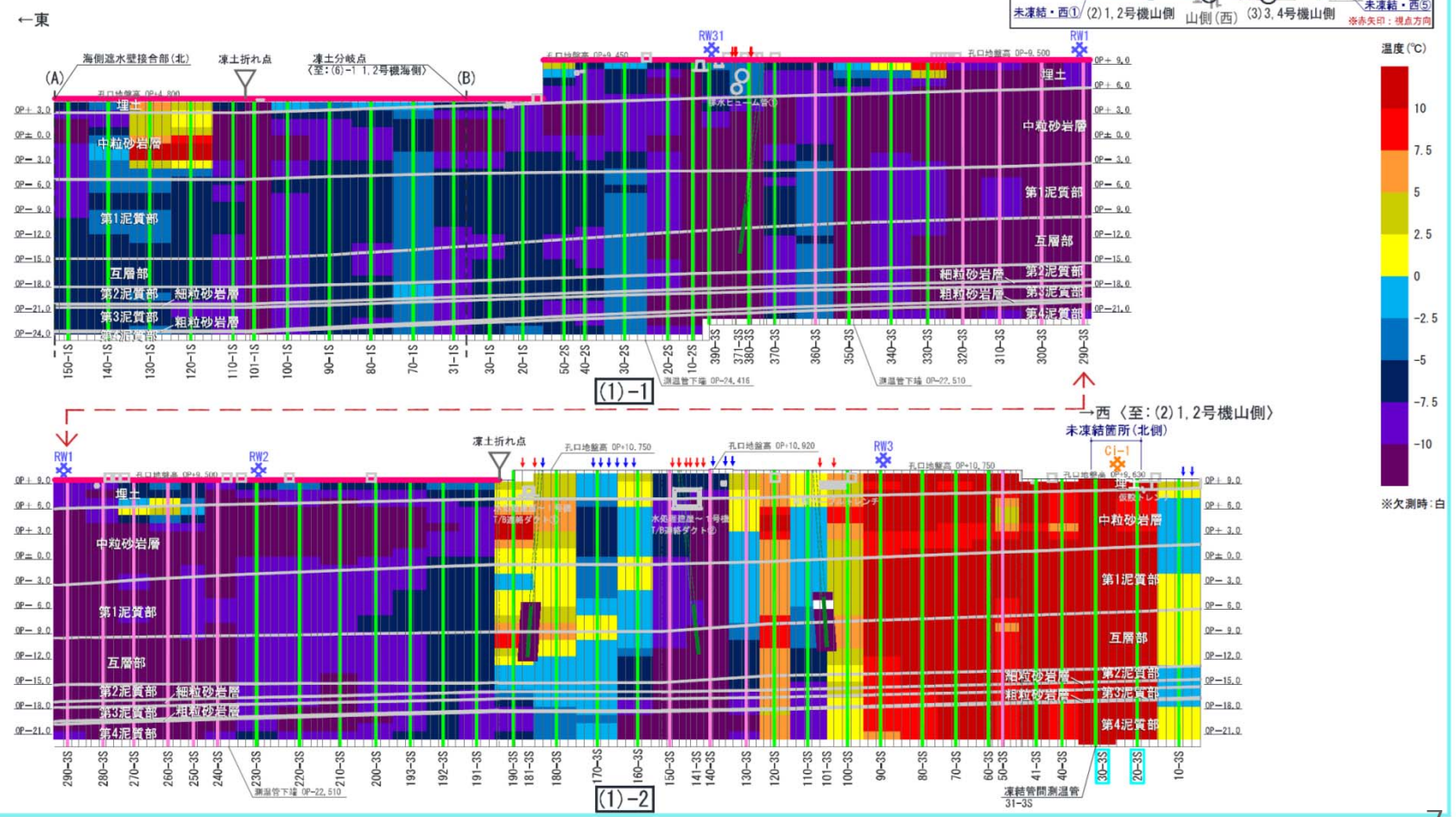
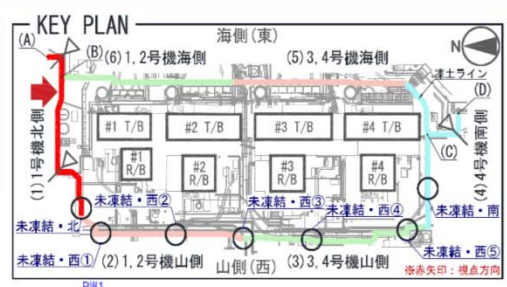
○地中温度分布図は、陸側遮水壁の周りに設置した測温管における地中温度について、深さ方向の温度変化を確認するための参考データとしてまとめたもの。



■ 地中温度分布図

(1) 1号機北側 (北側から望む)
(温度は6/14 7:00時点のデータ)

- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ✳ : RW (リチャージウェル)
 - ✳ : Ci (中粒砂岩層・内側)
 - ↓ : 単列部凍結管 (先行)
 - ↓ : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所



【参考】地中温度分布図(1・2号機西側)

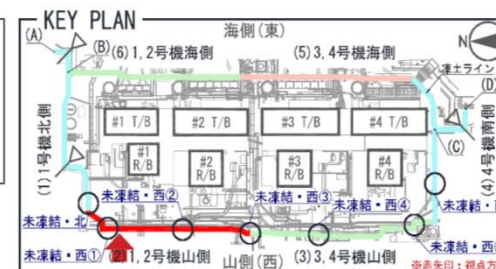


■ 地中温度分布図

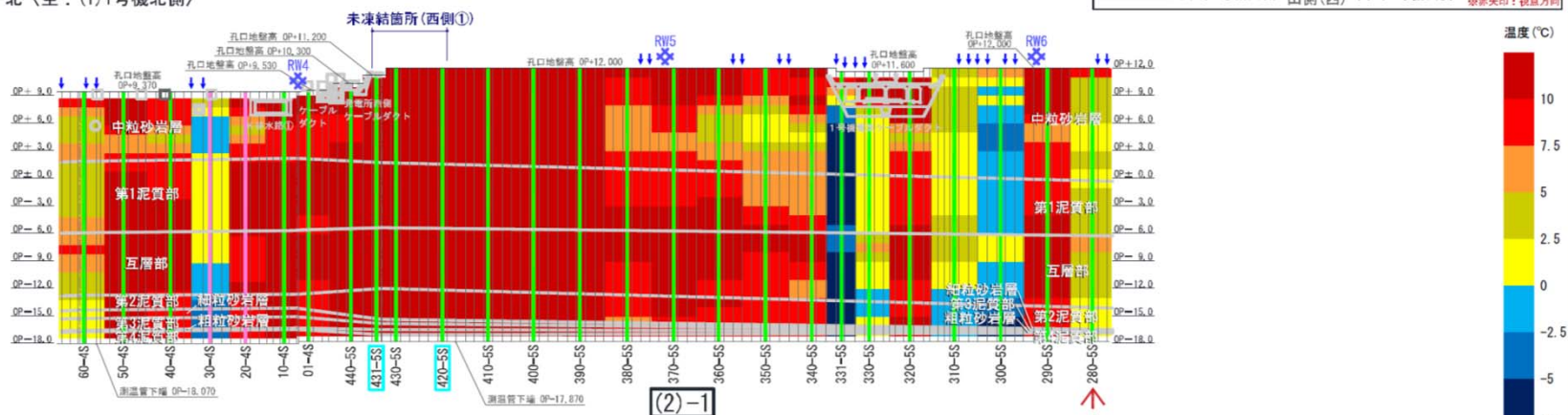
(2) 1, 2号機山側 (西側から望む)

(温度は6/14 7:00時点のデータ)

- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ◆ : RW (リチャージウェル)
 - ◆ : Ci (中粒砂岩層・内側)
 - : 単列部凍結管 (先行)
 - : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所

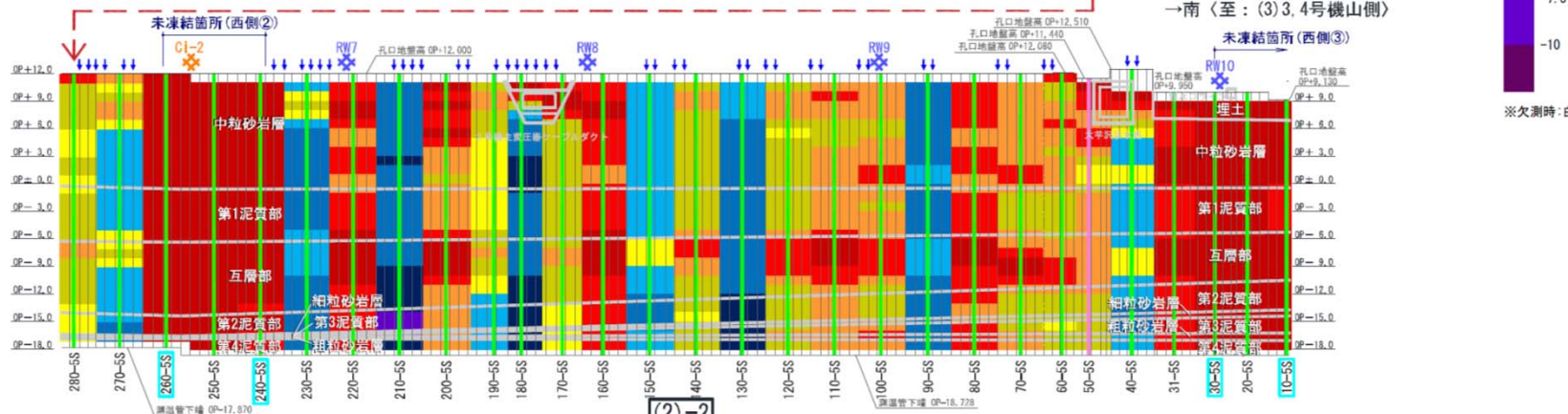


←北 (至: (1) 1号機北側)



(2)-1

→南 (至: (3) 3, 4号機山側)



(2)-2

※欠測時: 白

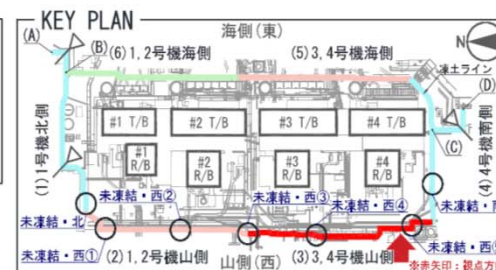
【参考】地中温度分布図(3・4号機西側)

■ 地中温度分布図

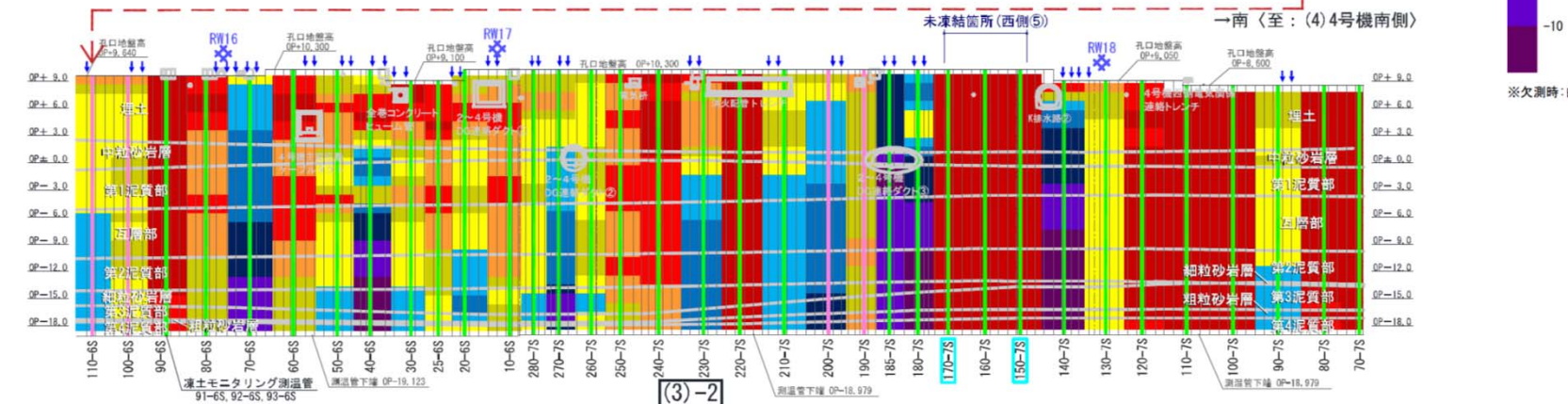
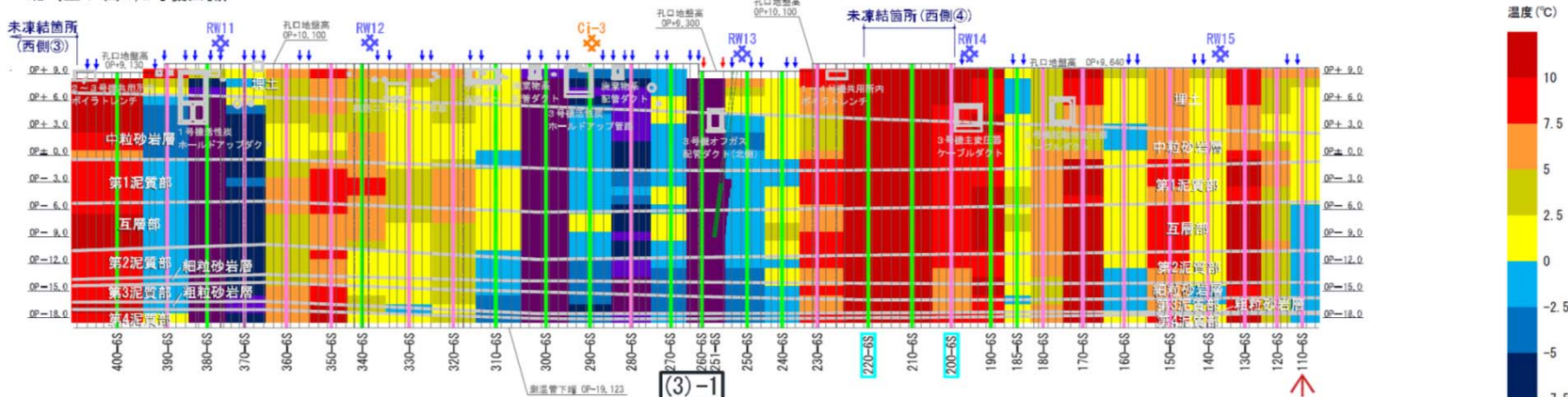
(3) 3, 4号機山側 (西側から望む)

(温度は6/14 7:00時点のデータ)

- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ◆ : RW (リチャージウェル)
 - ◆ : Ci (中粒砂岩層・内側)
 - ◆ : 単列部凍結管 (先行)
 - ◆ : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所



←北 (至: (2) 1, 2号機山側)



※欠測時: 白

【参考】地中温度分布図(4号機南側)

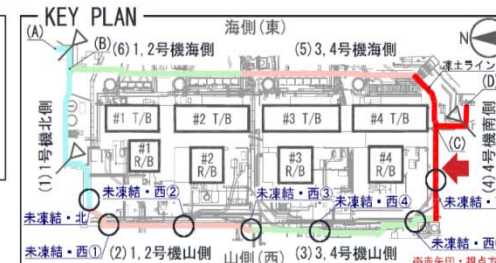


■ 地中温度分布図

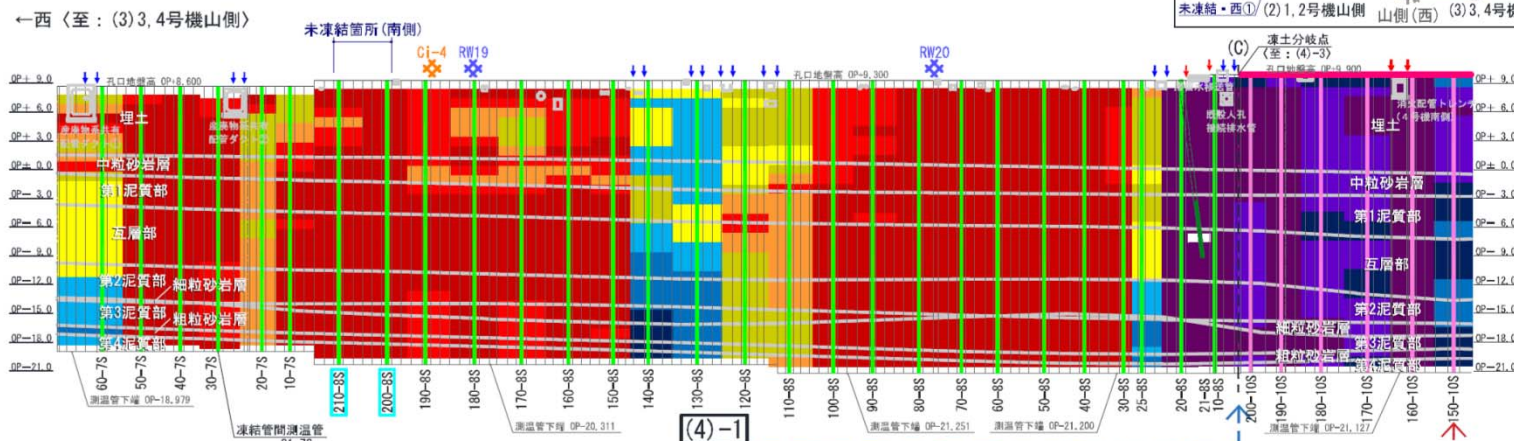
(4) 4号機南側 (南側から望む)

(温度は6/14 7:00時点のデータ)

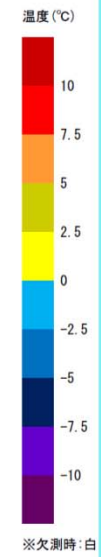
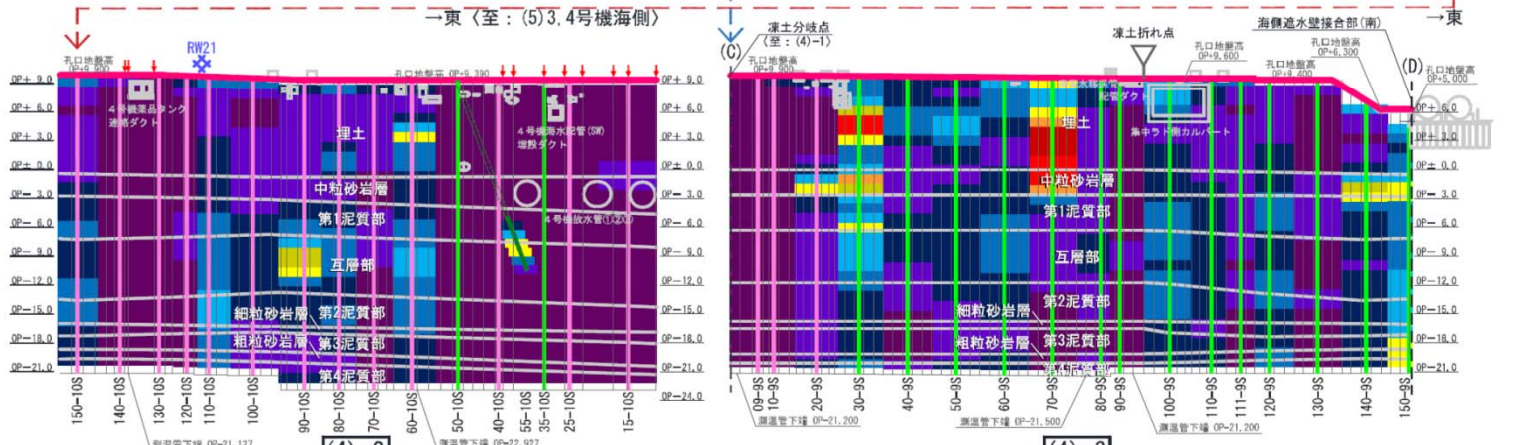
- 凡 例 —
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ◆ : RW (リチャージウエル)
 - ◆ : Ci (中粒砂岩層・内側)
 - ↓ : 単列部凍結管 (先行)
 - ↓ : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所



←西 (至: (3) 3, 4号機山側)



→東 (至: (5) 3, 4号機海側)



※欠測時: 白

【参考】地中温度分布図(3・4号機東側)



■ 地中温度分布図

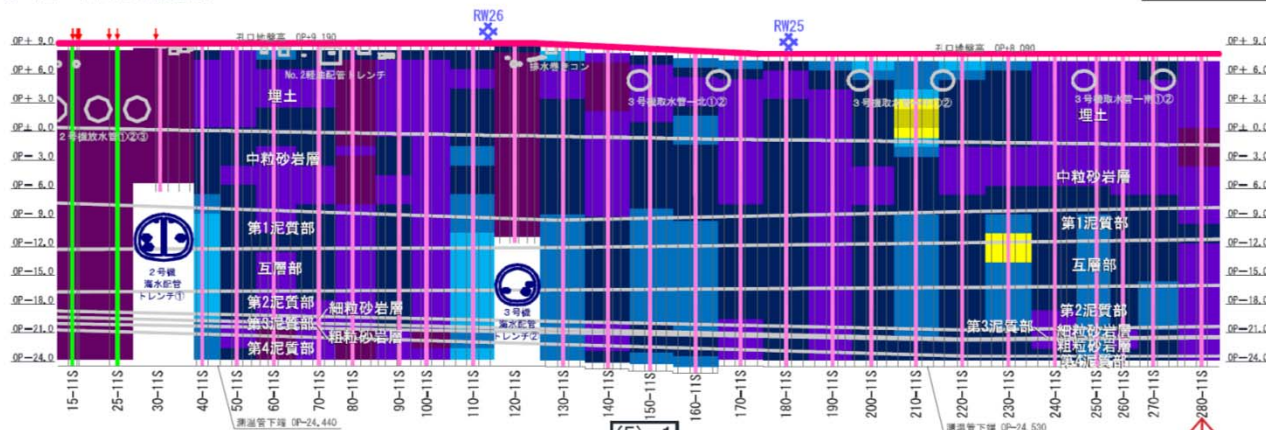
(5) 3, 4号機海側 (西側：内側から望む)

(温度は6/14 7:00時点のデータ)

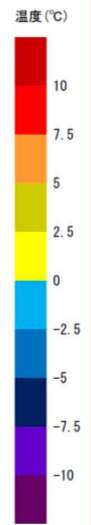
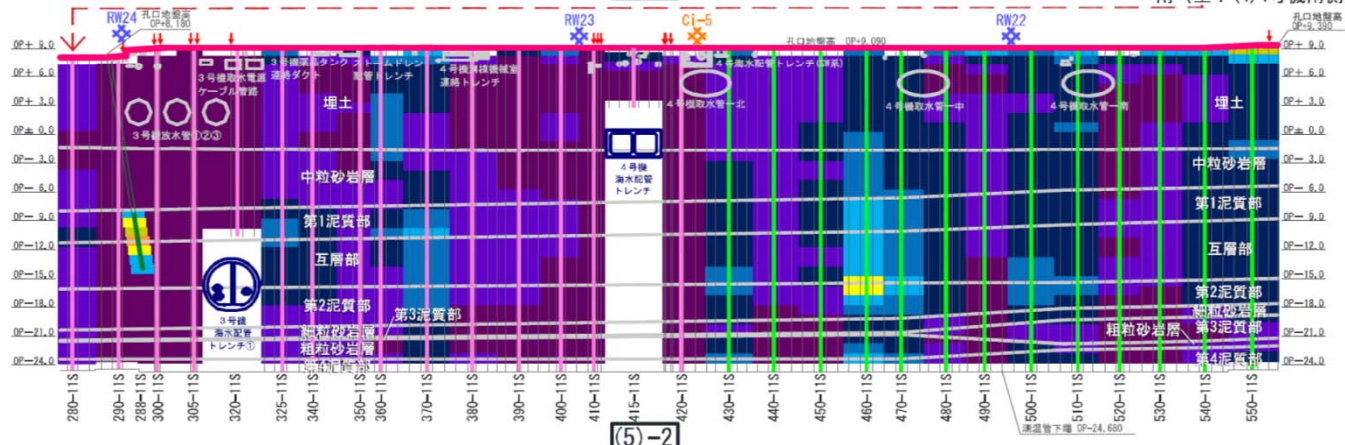
- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ◆ : RW (リチャージウェル)
 - ◆ : Ci (中粒砂岩層・内側)
 - ↓ : 単列部凍結管 (先行)
 - ↓ : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所



←北 (至：(6) 1, 2号機海側)



→南 (至：(4) 4号機南側)



※欠測時：白

【参考】地中温度分布図(1・2号機東側)

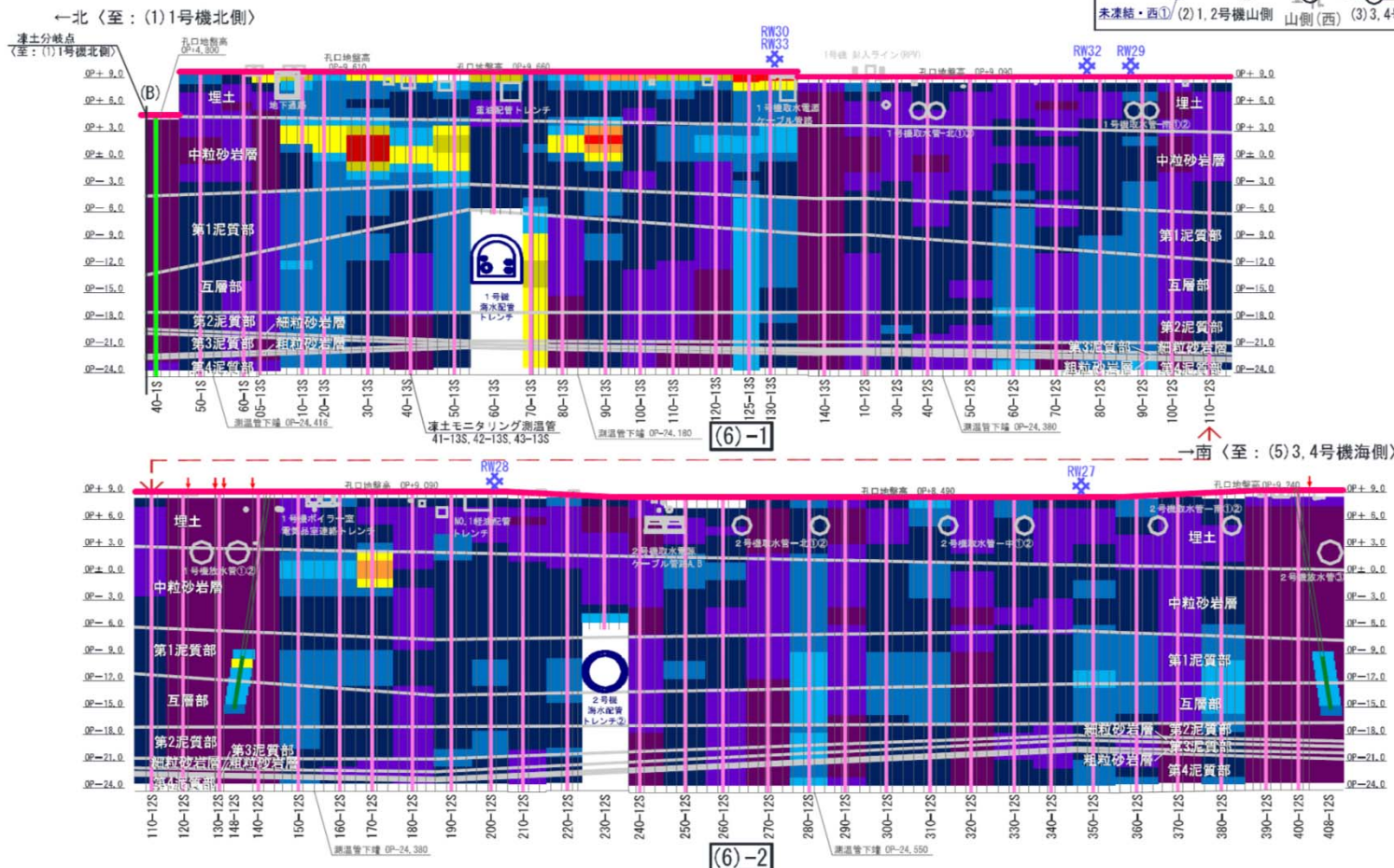
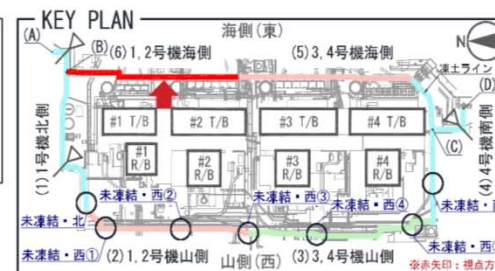


■ 地中温度分布図

(6) 1, 2号機海側 (西側：内側から望む)

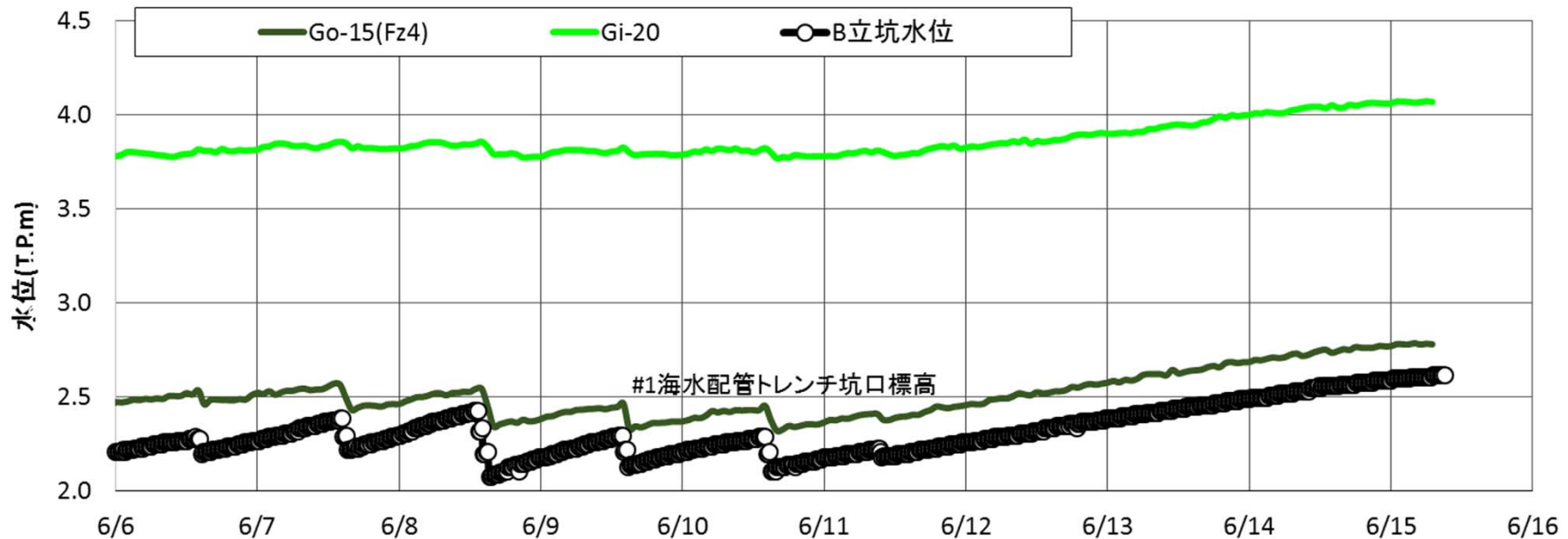
(温度は6/14 7:00時点のデータ)

- 凡例
- : 測温管 (凍土ライン外側)
 - : 測温管 (凍土ライン内側)
 - : 測温管 (複列部斜め)
 - : 未凍結箇所管理測温管
 - ▽ : 凍土折れ点
 - ✳ : RW (リチャージウェル)
 - ✳ : Ci (中粒砂岩層・内側)
 - ↓ : 単列部凍結管 (先行)
 - ↓ : 複列部凍結管
 - : 海側・北側一部凍結箇所



【参考】1号機海水配管トレンチ 溜まり水水位他の変化

- 1号機海水配管トレンチ内の立坑水位（立坑B）は、調査開始（2012年2月）以降、T.P.-9.5m（O.P.-8m）程度で安定していたが、凍結運転開始後は上昇傾向を示した。
- 4月30日より立坑B坑口から溜まり水の移送を開始し、至近では3～15m³/日の移送を実施しており、その結果、Go-15は立坑水位と同等、Gi-20はそれに比べ高めの水位を維持している。
- 立坑A,Bのかさ上げが6月9日に終了したことから、立坑水位上昇傾向の把握のため、6月12日から移送を中断し、立坑水位を上昇させている。



1号機海水配管トレンチ立坑水位と周辺の互層水頭の推移